

さわらび

～みんなで声を出して読みました～

「What do you eat for breakfast ?」

「I eat fried egg.」

さいころを振って止まったマス目の質問をみんなで読み上げています。そして本人が自分の答えを英語で言います。しかも



すごろくなので、上がりもあれば矢印で元に戻ったり……。わいわいやりながら、5人の元気な英語が響いています。

6月7日(木)の5時間目。眠くなりそうな時間帯も何のその……生徒3人にALTのウィリアム先生と黒田教頭先生も入って本当に楽しく学んでいます。

ここ数年の間に2回も英語圏に引率の出張があったにもかかわらず英語をしゃべれない私からすると、こうやって英語に親しみながらどんどん口に出していくことが、使えるために大事なんだろうと思いつながりながら参観していました。外国語が話せるということは、それだけつながりが広がるということです。「これからの国際社会では必要だから」だけではなく、自分の世界を広げるためにもがんばって学んでほしいです。

熱心な会議、おつかれさまでした。

6月7日(木)19:00から、第1回のPTA役員会でした。「廃品回収」「竹屋敷交流事業」等々、多くの議題に積極的にご意見をいただき、ありがとうございました。

どのご意見からも、PTAの主体性・学校の主体性の大切さを振り返ったことです。これからも会の中での討議・確認や日々の情報交換を大事にしながらすすめていきたいと思えます。

また、PTA会計の中の旅費についての指摘もいただきました。その後探してみましたが、規約等の中に「旅費規程」を見つけられませんでした。他校のPTA等を参考にして原案を作って、7月の役員会で検討することとします。

それ以外に出された事項についても、PTA運営に関わる大事な部分ですので、会長を中心として早急に対応できるように取り組んでいきましょう。



※これは、『あなたの子どもが「自立」した大人になるために』(平川理恵著)という本の一節です。家庭・地域・保小中が連携して取り組む中で、藤岡中校区の関係者が集まって、このような子どもの育ちについて学びあう機会もあったらいいと思います。

著者の平川理恵さん(49)は、リクルートで働いた後、公募していた民間出身の中学校長に採用になり、この4月からは広島県教育長を務められています。

県総体幡多地区予選会



6月9日(土)、今年度の県総体幡多地区予選会(野球)が3球場にわかれて実施されました。前日は激しい雷雨がありました。この日は朝から太陽の光が四万十スタジアムにも差していました。

11:30に開始された「藤岡・中村西中」対「大月中」の試合には、聖仁くんと亮嘉くんもそれぞれサードとライトで出場しました。試合は大月中に先行されましたが、6回表に逆転。しかし、6回裏に再度逆転され、惜しくも3-4で敗れました。1年生男子3名と保護者の皆様、応援ありがとうございました。

残念でしたが、また次の土曜日には、古城山杯招待野球大会があります。そして、中学校の野球の締めくくりとなる高知県中学野球選手権大会は、8月12日から始まります。最後まで一生懸命やりきってほしいと思います。



■連載・読み物シリーズ「郷土の偉人」(『高知の道徳』から)

保育の父 ～佐竹音次郎②～

ある日のこと、音次郎の医院に、幼い子どもを連れた母親がやってきた。

「肺がかなり弱っていますね。このままだと娘さんにまで病気が移ってしまうかもしれない。すぐ入院してください。」

うなだれて聞いていた母親がぼつりとつぶやいた。

「先生……、私は夫を亡くし、頼るべき親、親戚もおりません。」

母親の目から涙がこぼれ落ちた。

「私が入院したら、一体、この子はどうなるのでしょうか。」

音次郎を真っ直ぐに見つめる母親。その細くなった手は、娘の手をぐっと握りしめていた。音次郎は一瞬だけ目を閉じてきっぱりと言った。

「一私がお世話をしましょう。」

音次郎に迷いはなかった。

(つづく)

ハンガリー出身のアメリカの心理学者チクセン・トミハイに『フロア体験・喜びの現象学』という著書があります。そこにも書かれているのですが、子どもというものは、フロア体験をいくつ作ってやるかによって決まってくるのだそうです。フロアとは心理学の概念で、人間が何かに没頭している、完全にのめり込んで精神的に集中している状態のことを指します。

逆に没頭する体験というのができない子どもは、ものごとになかなか集中することができません。小さいうちに、このフロア体験を子どもたちにくれくらい与えてやれるのか、そこも非常に大事になってくると思います。